



未来を夢見て Season3

2022/12/15 No. 168

終盤の校内研究 2年生の授業から

令和4年度の校内研究も残すは2年生のみとなりました。15日(木)は小山先生が「九九をつくろう」で授業を提案してくださいました。小山先生の指導力の確かさは皆さん御承知の通りですが、2年生の子どもたちと小山先生と一緒に算数を創り出す過程が素晴らしかったので、私なりに感想を紹介させていただきます。



まず板書。ひらがながとてもきれいなので感心しました。私は悪筆なので、よく先輩から「上手でなくても丁寧に書きなさい」と指導されました。子どもたちのノートの文字も先生の影響できれいなお子さんが多かったのが目にとまりました。授業では子どもたちは思ったことをどんどんつぶやきます。でも、先生が一人の子を指名すると、不思議としんとなります。この「聞く構え」と「切り替え」も見事でした。さらに驚いたのは発表する子どもたちが一生懸命に考えて、自分の考えを必死に説明しようとしているところです。先生の発問が、子どもたちの本物の問いを引き出していればこそで、やはり発問の大切さを改めて感じた瞬間でした。



また、自己解決では小山先生ほどのベテランでも座席表を準備し、子どもたちの解決状況を把握し、必要な支援を与えています。さらに見応えがあったのが集団解決。ここは、多様な考えの比較・検討ができる教材なので、いろいろな考えが出されました。どの発表でも先生が、「ことば」から「式」という流れを徹底していたことで、子どもたちは授業のねらいから外れることはありませんでした。このあたりが先生の指導力の確かさのなせる技のように感じました。

子どもたちの言葉でまとめを書いて、圧巻は適用問題。すでに時間は10時14分(残り1分)を過ぎようとしていましたが、先生の気迫で子どもたちは飽きることなく応用問題に取り組みました。本当は時間を過ぎることは避けたいところですが、小山先生と子どもたちの信頼関係がそれを許しているようにも感じました。そして何より印象的だったのは子どもたちを褒めることの大切さ。こういった日々の積み重ねが先生との信頼関係につながり、子どもたちを育てていることを改めて学びました。

小山先生お疲れ様でした。

(文責：手代木)